

## 株式会社トーカイエコボード [製造業(パルプ・紙)]

所在地 | 〒463-0808 名古屋市守山区花咲台二丁目907番地 WEB | <https://www.tokai-ecoboard.co.jp>  
TEL | 052-739-3777 FAX | 052-739-3775



### 今も、これからも、持続可能な循環型社会に貢献し続ける企業です

株式会社トーカイエコボードは、約30年前から環境問題を見つめ、循環型社会実現に向けて技術開発を行い『エコボード』という素材を生み出しました。量産化に成功し、以降約20年余り、物流関連会社をはじめ各種製造業の方々の問題解決の一助となればとの熱い想いで、日々活用推進に努め続けています。創業の精神の一つ「公正不偏の精神」で、エコボードおよびエコボード関連製品の製造・加工・販売を通じ、環境配慮企業として貢献しています。



### 取組内容

#### 100%リサイクル可能な製品のCO<sub>2</sub>排出量の見える化で低炭素社会に貢献

近年、環境に対して、カーボンニュートラルといった考え方が加わり、環境配慮への取るべき行動も変化してきていると感じています。100%リサイクル可能な製品を販売する当社としても、この流れに合わせ環境配慮への取り組みを加速させ、低炭素社会の実現に貢献し、企業ブランディングにつなげていきたいと思い、参加しました。SBT認定取得には、CO<sub>2</sub>排出量の見える化が必須であることは、事前に調べて認識していたものの、本事業で実際に行ってみると、経理データや販売データと密接にリンクしていることに驚くとともに、日頃からのデータ収集のあり方についても検討していく必要があることを実感しました。また、SBT認定取得の際、英語での申請についても専門家からのアドバイスにより行うことができ、安心して取り組むことができました。

### 本事業を終えて

#### 自社のCO<sub>2</sub>排出量の見える化により、一つの指標を創り出せた

環境に優しい企業として謳ってきた当社にとって、カーボンニュートラルに向けた取り組みを見える化し、まず一歩を踏み出すことは大きな課題の一つでした。今回、本事業に取り組んだことで自社のCO<sub>2</sub>排出量の見える化により、一つの指標を創り出せたと感じています。今後は、排出量の削減に努めながら、省エネと再エネをうまく組み合わせ、一歩ずつ進んでいきたいと思っています。また、当社は、取引先企業の多くが他業種で製造元であることから、本事業の成果をしっかりと情報開示し、自社の信頼につながるようPRにも力を入れていきたいと考えています。

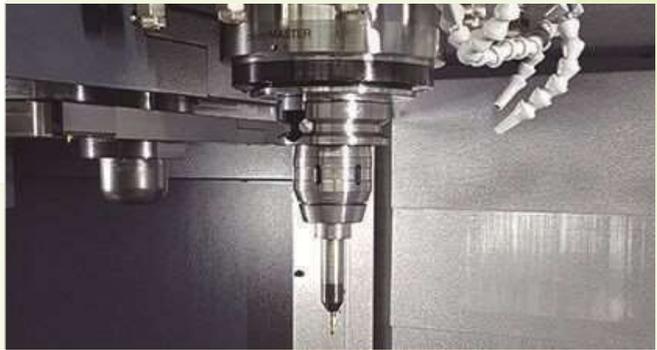
# 株式会社ノダキ [卸売業]

所在地 | 〒451-0045 名古屋市西区名駅三丁目10番地26号 WEB | <https://nodaki.jp>  
TEL | 052-561-4371 FAX | 052-561-4379



## 創業以来110余年の 機械工具の専門商社

株式会社ノダキは、1907年に創業した機械工具の専門商社です。110余年にわたり、世界中で活躍している多くのメーカーの成長に貢献してきました。各社の創業時代から共に歩み、困難に直面した時も、歓喜の声を上げた時も、さまざまなオーダーに応じてきました。だからこそ、各社の特性やルール、今まで積み上げてきたノウハウや改善に至る経緯なども全て理解した上で提案を行っています。ノダキの歴史は「挑戦の歴史」です。時代に合わせ変化してきたからこそ、今のノダキがあります。次の100年へ。培ってきた挑戦の想いを受け継ぎ、歩み続ける企業です。



## 取組内容

### カーボンニュートラルに向けた 情報開示への取り組み

当社は、愛知を中心とするものづくり企業を支え、共に成長してきました。近年、社会的な影響を背景に取引先企業のカーボンニュートラルへの取り組みが進んでいます。当社としても、カーボンニュートラルに向けた情報開示に取り組み、成長を支えられる企業として取引先企業とともに成長するため、参加しました。温室効果ガスの算定においては、当社ではISO14001の取得以降、国内拠点ではデータの一元管理を行っており、活動量の把握は意外と手早く行うことができました。しかし、海外拠点では現地の考え方で管理していたため、把握に苦労する場面もあり、国際認証の意味を痛感しました。今後は、この取り組みを通じて、取引先企業と歩調を合わせ、カーボンニュートラルに取り組み、より良いものづくりをサポートできる企業に成長していきたいと考えています。

## 本事業を終えて

### カーボンニュートラルの実現を サポートする製品や サービスを提案していく

当社の温室効果ガス削減への取り組みは、製造業とは異なり、低炭素社会への貢献度としてはそれほど高くないと思います。しかしながら、製造業の方々と同じ目線で向き合い、考え方を共有することで、取引先企業が本当に必要とするものを自分たちで考え供給できるのではないかと考えています。今後は、製品やサービスに関する温室効果ガスの情報開示のみならず、取引先企業が求める機会に即時対応するため、当社の取扱製品や技術領域を拡大させ、取引先企業のカーボンニュートラルの実現をサポートする製品やサービスを提案していきます。